

活動の柱

- 1 青少年の体験活動の促進
- 2 青少年団体の育成と支援
- 3 青少年に望ましい地域づくり
- 4 青少年に関する相談と対応
- 5 青少年に関する調査と情報提供



神奈川県青少年指導員だより

第53号

- 2015年9月 -

発行 神奈川県青少年指導員
連絡協議会
発行者 石井一也
連絡先 045-210-1111(代)
神奈川県青少年課内
印刷 文一堂印刷株式会社
045-231-1931

平成27年度 「青少年の健全育成を進める県民大会」

平成27年7月11日(土)県立青少年センターにおいて、「青少年の健やかな成長を支える地域社会づくり」をテーマに、青少年の健全育成を進める県民大会が開催されました。

◆オープニング

横浜市立南高等学校の生徒さんの司会進行で、大会が始まりました。オープニングセレモニーの県立金沢総合高等学校のダンス部の皆さんの演技は、「目指せ、グランプリ! 見ている方に感動を!」という目標のとおり、いきいきとした素晴らしいもので、大会に華を添えてくださいました。



県立金沢総合高等学校ダンス部の演技

◆基調講演

昭和女子大学特任教授の興梠 寛 氏を講師に迎えて、「必要とされることの意味」をテーマに、講演が行われました。興梠氏は、「青少年は、必要とされて初めて、大人になれる。」と語られました。また、「青少年が、ボランティア活動をとおして社会に貢献することで、学ぶことの意味と喜びを実感し、生きる力が育まれ、自分で判断ができる大人になれる。」と強調されました。

そのためには、「青少年が、自己肯定感を養えるような居場所やチャンスを、私たち大人が作り出していくことが大切である。」と結ばれ、講演は終了しました。

◆パネルディスカッション

日本大学教授の佐藤 晴雄氏の進行により「自分らしい社会参加とは」をテーマに、興梠氏と県立釜利谷高等学校教諭の穂積 啓之氏、日本大学高等学校の生徒さん二人をパネリストに迎え、パネルディスカッションが行われました。

- ・穂積氏は、「SSE(ソーシャル・スキル・エデュケーション)や釜利谷サポートチーム(校内ボランティアチーム)の取組により、生徒自身に自己有用感や自尊感情が育まれ、良好な人間関係を築けるようになってきている。」との報告がありました。
- ・生徒さんは、意味ある他者になれた体験を語られ、「ギャップイヤー(すき間の1年)の導入など、青少年が社会参加ができるような地域社会であれば、青少年が、自らの意思で自分らしい社会参加ができるようになるのではないか。」との投げかけがありました。
- ・興梠氏は、「青少年が生きる力を育むには、青少年同士でボランティアを計画し、社会参加していくことが大切で、私たち大人は、社会参加しようとする青少年を、もっと応援していけるような地域社会にしていかなければならない。」とお話されました。会場からは、青少年自身でボランティアを計画する場合の工夫の仕方や、コミュニティ・スクールについて、熱心に質疑応答が交わされました。

パネリストの話を受けて、佐藤氏は、「青少年が自分らしい社会参加をするために必要な4つの支援」を挙げられました。

- 1 情緒的支援 (話を聴いてあげる、共感してあげる、挨拶する)
- 2 物理的支援 (物や場所を提供してあげる)
- 3 情報 (社会参加の情報を提供してあげる)
- 4 評価的支援 (良い事は誉めてあげる、悪い事は指摘してあげる)

「私たち大人が、青少年に手を差し伸べることで、青少年は自分らしい社会参加ができるようになるでしょう。」と結ばれて、パネルディスカッションは終了しました。



講演の様子

◆おわりに

かながわ青少年社会環境健全化推進会議の石井会長の閉会の言葉により、大会は終了しました。

社会環境健全化推進街頭キャンペーンを開催しました



7月29日 横浜会場の様子

「青少年の非行・被害防止全国強調月間」である7月には、全国で青少年の非行防止を図る周知啓発イベントが行われます。県内でも期間中、青少年関係団体や関係業界団体等のご協力により、様々な取組が実施されています。

青少年指導員の皆様には、県内各地で実施された「社会環境健全化推進街頭キャンペーン」にご協力いただき、ありがとうございました。

このキャンペーンでは、「社会全体で青少年を守り、支え、育てましょう」と呼びかける啓発チラシ等を県民の皆さんに配布し、青少年を取り巻く社会環境の健全化を訴えています。

7月25日には川崎フロンターレのホームゲームで、7月29日には横浜F・マリノスのホームゲームでキャンペーンを実施しました。それぞれの

会場では、啓発チラシ等に加え、Jリーグ各クラブチーム、神奈川県遊技場協同組合及び神奈川福祉事業協会にご協力いただいて作成した、青少年のインターネットの適切な利用に向けたご家庭でのルールづくりや青少年の深夜外出の制限を呼びかける特製クリアファイルも配布しました。

両日とも大変厳しい暑さでしたが、来場された多くの方々へ啓発物品を配布し、青少年の健全な育成に望ましい社会環境づくりへのご協力をアピールすることができました。

7月25日 川崎会場の様子



××× 青少年の喫煙飲酒防止に向けた協働の取組 ×××

神奈川県では、保護者、事業者、県民、県が一体となって青少年（20歳未満）の喫煙や飲酒を防止する社会環境づくりをしていくための神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例を制定し、関係業界団体と協働で青少年の喫煙飲酒防止に向けた取組を行っています。

具体的には、横浜F・マリノスの中澤佑二選手の写真を使用した条例周知のポスターや統一ロゴマークを使用したスイングPOPを作成し、県内のスーパーやコンビニエンスストア、たばこ・酒類販売店、飲食店などの店頭に掲示することで、証明書等による年齢確認をしやすい環境づくりを進めています。そのほかにも啓発用ポケットティッシュを作成し、各種行事で配布することで県民の皆様への一層の条例周知を図っています。

また、毎年1回、関係業界団体・関係機関がさらなる協働の取組に向けて情報共有・交換を行う会議を開催したり、各関係団体が行うキャンペーンに参加したりするなど日々協働の取組を進めています。

青少年指導員の皆様方におかれましても、地域の青少年などに対し、



【ポスター (A4、A3、B2)】



【スイングPOP】

日ごろから積極的に声をかけていただくなど、青少年の喫煙・飲酒を防止する社会環境づくりにさらなるご協力をお願いいたします。

こんな
イラスト
欲しかった

使えるイラスト大全集 (CD)

神奈川県青少年指導者養成協議会では、イベントの案内チラシや広報誌などを作成する際に活用できるような、「使えるイラスト」を集めたCD-ROMを作成しました。

市販のイラスト集にはないような活動を含めて、500カット以上のイラストを、「自然体験」「遊び・スポーツ」「ワークショップ」「アート」「イベント」等のカテゴリーに分類し、収録しています。ポスターの使用にも耐えうる、比較的解像度の高いデータとなっています。

イラストデータ以外にも、初心者向けの手引きやチラシづくりのヒント、困ったときに使えるチラシ作成例なども収録していますので、青少年活動に関わる団体や個人、青少年施設や行政職員のみなさんにご活用いただければ幸いです。



フォルダ構成

- 自然体験その1…………… 117点
- 自然体験その2…………… 78点
- 遊び・スポーツ…………… 22点
- ワークショップ…………… 36点
- アート…………… 78点
- イベント…………… 68点
- その他…………… 113点
- ちらし作成例…………… 12例

ワードでちらし&ポスター
(初心者向けの手引き)



〈チラシ作成例〉
修正してつかえます。



まだあります! 〈指導者養成協議会のその他の発行物〉



つくって、あるいて、新発見!

歩きながら楽しく地域を理解する「歩くプログラム」の作り方手引き。県内各地をフィールドにしたプログラム実例や安全管理マニュアルも収録。



楽しくすすめるグループワーク

グループづくりや話し合いの活性化に役立つ活動の手引き。12のアクティビティを紹介。青少年センターHPからもダウンロードできます。



遊びのタネ・ネタ帳

子どもたちの自由な遊びを支える「遊びサポーター」になるための指南書。集団遊びのタネやネタが詰まっています。遊んでいる様子を収録したDVD付。

*ここに紹介したCDや冊子は、青少年活動に関わる個人または団体に、無料で提供します。ご希望の方は、下記までご連絡ください。

神奈川県立青少年センター 指導者育成課
(月曜休館)

【電話】045-263-4466(直通)
【URL】<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531226/p881268.html>



青少年の健全育成について

神奈川県県民局次世代育成部青少年課

事件・事故につながりかねない青少年の深夜外出や喫煙・飲酒など、青少年の健全な育成を阻害するおそれのある行為を防止するため、神奈川県では、「神奈川県青少年保護育成条例」や「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」により、次のように規定しています。

● 青少年の深夜外出の制限について

保護者は・・・

- ・ 特別の事情がある場合のほかは、深夜（午後11時から午前4時までの間）に青少年を外出させてはいけません。深夜外出に伴って受けかねない危害からお子さんを守りましょう！
- ・ 保護者が一緒であっても、深夜外出してはいけません。
お子さんの生活習慣の乱れや、深夜外出への抵抗感を下げ、将来の単独外出を助長するおそれがあります。深夜にお子さんを同伴して外出しないようにしましょう！

県内にいる人は誰でも・・・

- ・ 保護者の承諾などを得ないで、深夜に青少年を連れ出したり、同伴したり、とどめたりしてはいけません。
- ・ 深夜に外出している青少年に対しては、その保護や帰宅の勧奨に努めなければなりません。
※ 青少年が保護者から深夜外出の承諾を得ていることが明らかである場合は、この限りではありません。

深夜に営業を営む者、従業員等は・・・

- ・ カラオケ店やインターネットカフェ・まんが喫茶では、深夜に青少年を施設に立ち入らせてはなりません。また、施設の入り口に、深夜における青少年の立入りを禁止する旨を表示しなければなりません。
- ・ 深夜に施設内又は敷地内にいる青少年に対し、帰宅を促すように努めなければなりません。

● 青少年(20歳未満)の喫煙・飲酒の防止について

県内にいる人は誰でも・・・

- ・ 青少年に対し、喫煙・飲酒を勧めたり、そのための場所を提供したり周旋したりしてはいけません。
大人が、青少年にたばこやお酒を勧めることは、あってはならないことです。また、たばこや酒類の自動販売機用の成人識別カードの貸し借りは、青少年の喫煙や飲酒を助長するのでやめましょう！
- ・ 青少年に対し、みだりにたばこ・酒類の購入を依頼してはいけません。
たばこや酒類の買い物を頼むことは、販売時にトラブルを招く原因となるばかりでなく、青少年のたばこや酒類に対する抵抗感を下げのおそれもあります。たばこや酒類の買い物を青少年に頼まないようにしましょう！



神奈川県民は・・・

- ・ 青少年が喫煙・飲酒をしないよう声かけするよう努めなければなりません。
周囲の大人が日ごろから声をかけ、見守っているということを伝えることが、青少年の喫煙や飲酒の防止につながります！

販売業者、飲食店等営業者は・・・

- ・たばこ・酒類を購入しようとする者が青少年であると思われるときは、運転免許証などの提示を求め、年齢や生年月日を確認しなければなりません。

青少年の喫煙・飲酒は、「未成年者喫煙禁止法」や「未成年者飲酒禁止法」により、禁じられております。

保護者は、青少年が喫煙・飲酒していることを知ったときは制止しなければなりません。

販売者は、青少年に販売・提供しないように、年齢確認をしなければなりません。

「神奈川県青少年喫煙飲酒防止条例」では、青少年に喫煙・飲酒を勧誘し、助長する行為を禁じるとともに、県民への協力を呼びかけています。

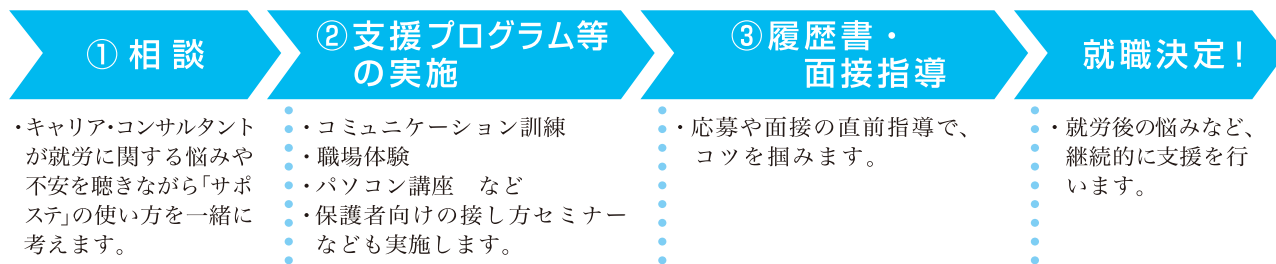
青少年指導員の皆様方におかれましては、日ごろより、こうした規定により、青少年への善導に取り組んでいただいておりますが、改めまして、条例へのご理解と、これまで以上に青少年に対する積極的な声かけ、見守りにご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

ニート等の若者の就労などを支援する地域若者サポートステーションのご案内

地域若者サポートステーション(愛称:サポステ)では、働くことに悩みを抱えている15歳～39歳までの若者を対象に、就労に向けた支援を行っています。臨床心理士やキャリア・コンサルタントなどによる専門的な相談や、各種講座や職業体験などを通じて、就職等を目指します。

サポステは、厚生労働省が認定した全国の若者支援の実績やノウハウのあるNPO法人、株式会社などが実施しています。お気軽にご相談ください。

◆支援の流れ



県内の地域若者サポートステーション

※面接相談には予約が必要です。

よこはま若者サポートステーション	【電話】045-290-7234 【交通】各線「横浜駅」西口から徒歩約8分
湘南・横浜若者サポートステーション	【電話】0467-42-0203 【交通】JR「大船駅」東口から徒歩約5分
かわさき若者サポートステーション	【電話】044-850-2517 【交通】JR「武蔵溝ノ口駅」、東急線「溝の口駅」から徒歩5分
さがみはら若者サポートステーション	【電話】042-703-3861 【交通】JR・京王線「橋本駅」北口から徒歩約1分
県央地域若者サポートステーション	【電話】046-297-3067 【交通】小田急線「本厚木駅」から徒歩約5分
県西部地域若者サポートステーション	【電話】0465-32-4115 【交通】JR・小田急線「小田原駅」西口から徒歩約3分



(県央地域若者サポートステーション)



夏の思い出キャンプ体験

横浜市緑区青少年指導員連絡協議会 会長 松浦 正義

緑区では、11地区それぞれ地域に根差した活動を行っています。その中で2地区(鴨居地区・長津田地区)の活動を紹介します。

【鴨居地区】

毎年夏休みに小学生を対象に「ワクワクキャンプ」を1泊2日で開催しています。日帰り、宿泊合わせて、総勢約200名の児童が参加します。児童たちの面倒を見てもらうJRリーダーを東鴨居中と鴨居中の生徒から募りますが、抽選する程の人気ぶりです。

キャンプでは体育館や校庭でゲームをした後、カレーを作って食べ、夜にはキャンプファイヤーの周りでフォークダンスを踊ったり、ゲームをしたり、鴨居小おやじの会によるミニコンサートで盛り上がります。体育館で映画鑑賞し、就寝は体育館で雑魚寝ですが、子どもたちは楽しくてなかなか寝てくれません。翌朝、青少年指導員特製のホットドッグで朝食を取り、宿泊組の解散でキャンプの終了です。



【長津田地区】



猛暑の中、熱中症に注意し、デイキャンプを長津田地区センターで行いました。カレー作りは4グループに、飯盒炊飯は1グループに編成しました。カレーはビーフ、ポーク、チキン、野菜の4種類を作りました。飯盒炊飯グループでは、お米とぎ、水加減等もすべて小学生主体で行いました。

そして夕食では、カレーを4杯もお代わりする食欲旺盛な子、スイカ割りでは反対方向へ行ってしまう子もいました。最後はちょっと怖い神社境内で、肝試しを行いました。



今の小田原について

小田原市青少年育成推進員協議会 会長 大川 良則

小田原市青少年育成推進員協議会は、現在11中学校区、4実行委員会、118名で活動しています。協議会の事業としては、各々の実行委員会が小学校5～6年生対象の『地域少年リーダー養成講座』、中高生対象の『東日本被災地スタディツアー』、『中学生の主張発表』、年間4回の広報紙発行などを行っています。そして、各中学校区は全体研修を兼ねる定例会を年5～6回(各中学校区が2年間で1度は担当する)を開催し、更に街頭指導を概ね毎月2～4回の頻度で実施しています。また、『成人式』や『青少年と育成者の集い』など小田原市が関わる青少年の健全育成事業に協力しています。

さて、養成講座は約130名が参加する事業ですが、今年から若干手狭な施設に変更となりました。実行委員会では試行錯誤を繰り返しながら今年度のテーマを『はばたけ！森のニンジャ部隊!!』と決め、川渡りの術や紙手裏剣作りなど7つのプログラムを実施する予定であります。また、スタディツアーは情熱と企画以外何もない処からのスタートでした。資金は市内の皆様へ企画と目的を説明し、ご理解とご協力を頂きました。被災地との交渉やポスター作りなど全てが手探り状態で進め実現しました。大きく条件が変化したり、新たに始めるなどの困難な状況の事業を進める中で、参加者にも大きな成果を確信すると同時に、実施する推進員も大きな資質の向上と自信を持ち、今後の活動の糧となると思います。



※今年のスタディツアーで、東北大学総合学術博物館前での記念写真です。ここでは、被災地の震災当時の状況を3Dで体験しました。



子ども大会～まほうのことは「ありがとう!」～

平塚市青少年指導員連絡協議会 会長 相馬 喜昭



平塚市は総数330名の青少年指導員が28小学校区ごとに分かれて毎年「子ども大会」を実施しています。

今年で47回目のこの大会は、家族ぐるみで参加出来、「明るい家庭づくり」「明るい地域づくり」を推進するのが目的です。

その28小学校区のひとつ、崇善地区では「みんなでつどおう!崇善夏まつり子ども大会～まほうのことは「ありがとう!」～」をテーマにし、子どもたち、中学生ボランティア、大人がみんなで「ありがとう」の言葉を使って積極的にふれあうという取組みを続けています。

マーチングバンドの演奏に始まり、七夕太鼓、よさこい、七夕踊り、子どもたちが運動会で踊った踊り、地域諸団体の方々の協力で、焼きそば、かき氷、ポップコーン、ヨーヨー、ストラック

アウト、ワイヤーマン等々のメニューで楽しんでもらう中、子どもたちには受付時チケット(食べ物券・遊び券・何でも1回使える券)が配付されます。「何でも1回使える券」では子どもが大人と「ありがとう」の言葉をかけあうとシールが1枚もらえ、5枚たまると何でも1回使えるという仕組みを作っています。

遊びで楽しむだけでなく、今年も「ありがとう」の言葉でたくさんの心と心をつないでくれた子ども大会となりました。



麻生区の魅力を楽しく発見

川崎市麻生区青少年指導員会 会長 松本 弘

麻生区は、里地里山や公園が多く、川崎市内でも有数の緑豊かな地域です。また、名所旧跡にも恵まれているので、麻生区の良いところを再発見して欲しい、麻生区を更に好きになって欲しい、という思いから、毎年9月の第一日曜日に「あさおわくわくウォーク」(ウォークラリー)を開催しています。地形の特徴だけが記載されているコマ図を頼りに、ゲームやクイズをしながらゴールを目指してチーム毎に歩きます。事前に設定されたタイムに、より近い時間でゴールしたチームが高得点となり、入賞チームには、麻生区産の採れたて野菜を袋いっぱいお渡ししています。

毎年多くの参加者を得て今年で31回目を迎えました。麻生区を大きく3か所(柿生周辺、新百合ヶ丘～多摩線沿線、百合丘周辺)に分け、飽きのこないコースの設定に苦心しながらも、当会の一大イベントとして、指導員一丸となって準備にあたっています。迷わずに無事ゴールした時の笑顔や、入賞して袋一杯の野菜を手にした笑顔を見るにつけ、今年も無事開催できて良かったと疲れが吹き飛び、また来年も!と励まされています。

麻生区青少年指導員会では、月4回の定例パトロールや各種イベント会場でのパトロールによる声掛けに加えて、「あさおわくわくウォーク」のように子どもたちが元気に楽しく遊びながら過ごせる場を提供し、子どもたちに健やかに育ってほしいと願っています。





(平成27年10月～平成28年3月の予定)

◆横浜市

○鶴見区青少年指導員研修会

平成27年11月18日(水)

平成28年2月18日(木)

両日とも19時～20時30分

鶴見区役所会議室

青少年との関わり方をテーマに、講師を招いて研修会を実施します。

○第15回鶴見区内公立中学校生徒交流の集い

平成28年1月16日(土)9時～14時

市場中学校

学校・学区を越えて生徒や青少年指導員が交流することで、地域交流を活性化します。

○第6回神奈川区小学校音楽フェスティバル

12月12日(土)10時～16時10分

横浜市神奈川公会堂

区内の小学校15校(予定)が参加する合唱の発表会です。(入場無料)

○つづきウォーク & フェスタ(都筑区)

11月23日(月・祝)9時～15時

センター南駅前すきっぷ広場及び区内各所ウォークラリーや、中高生による吹奏楽演奏、バトン・ダンス演技を実施します。

○第9回西区ハマのウォーキングフェスティバル～ぶらり 路地・街道～

12月6日(日)

路地歩きコース(約9km)9時30分スタート

街道歩きコース(約6km)10時スタート

【スタート】戸部公園

【ゴール】臨港パーク

○平成27年度 第35回ボイス・オブ・ユース(青少年の主張)(南区)

11月29日(日)13時開演

横浜市南公会堂

小学校3年生から20歳までを対象に募集した作文の表彰・代表者朗読発表等を行います。

○チャレンジ・ザ・ゲーム(港南区)

11月7日(土)10時～15時

港南ふれあい公園

子ども向けの簡単なゲームを8種程度用意しています。

○第5回港南ひまわりウォーク

平成28年3月13日(日)9時～13時

港南ふれあい公園ほか

○ほ도가やバンドバトル2015

11月22日(日)11時～16時

保土ヶ谷公会堂

区在学の中高生によるバンド演奏会です。投票により優勝バンドを決定します。

○第39回保土ヶ谷区新春かるた大会

平成28年1月24日(日)9時40分～16時

ほ도가や地区センター

小学生の部、中学生の部などに分かれて

行う、チーム戦の競技かるた大会です。

◆川崎市

○第26回中原区青少年吹奏楽コンサート

11月3日(火・祝)

川崎市総合福祉センター(エポックなかほら)

中原区内中学校・高等学校吹奏楽部による

演奏、同有志による合同演奏。

○第5回多摩・麻生地区中学生バスケットボール大会～スプリングカップ～

平成28年3月5日(土)

川崎市多摩スポーツセンター

多摩・麻生区内の中学1年生が、学校ごと

に男女に分かれ、試合を行います。

◆鎌倉市

○第9回「中学生作文コンクール」表彰式・発表会

平成28年1月24日(日)10時から

鎌倉市議会本会議場

「自然と歴史の共存するまちづくり」がテーマ。入選作を発表する。

◆藤沢市

○JUMP UP U-20 WINTER CONCERT

12月23日(水・祝)13時開演予定

湘南台文化センター

20歳以下の青少年バンドによるロック・ポップスコンサート



第48回(平成27年度)神奈川県青少年指導員大会について

平成27年度神奈川県青少年指導員大会は、平成27年11月15日(日)13時から、相模原市の杜のホールはしもとで開催されます。

今年のテーマは「育てよう豊かな心・伸ばそう若い力」。

相模原市の青少年指導員の皆さんが力を合わせて、大会の準備を進めています。

オープニングは、地元の相模原市少年鼓笛バンド連盟の演奏で始まります。

主催者のあいさつに続いて、表彰者の方々に感謝状を贈呈します。

事例発表は、相模原市の青少年指導員の取り組みをご紹介します。

講演会は、少年院篤志面接員として、少年院への慰問活動などの豊かな経験をお持ちの落語家 桂 才賀 師匠を講師に迎え、「子供を叱れない大人たちへ(仮題)」をテーマにお話いただく予定です。

杜のホールはしもとは、JR・京王線「橋本駅」北口を出て右側です。

駐車場はございませんので、お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

編集後記

つばさ編集委員 近藤 郁恵

記録的な熱帯夜が続いた今年の夏ですが、相模原の仲間にとっても11月に地元開催となる青少年指導員大会を控えて特に暑い夏となりました。改めてこれまで受け継がれてきた事業や、新しくチャレンジする事業に思いを馳せる機会を得た夏でしたが、この「つばさ」第53号のいたるところにも、同じく熱い思いが溢れています。執筆にご協力いただいた皆様に感謝しつつ、情報交換のツールとしても積極的にご活用いただけると嬉しく思います。

「つばさ」第24期 編集委員

白石 勝己(横浜地域) 松本 弘(川崎地域) 近藤 郁恵(相模原地域) 芦澤 雄一(横須賀三浦地域)
中野 隆則(担当理事)